ぶんじライブラリー

国分寺高校図書館だより　　２０１８．９月号

★木もれ陽祭が近づいて校内はにぎやかですね。図書館はひっそり開館しています。

★夏休みに借りた本を返していない人は、早く返してね！

古本大募集！

今年も図書委員会は、木もれ陽祭で古本市を行います。集まった収益金は、日本赤十字を通じて寄付をします。まだまだ間に合います！不要な本がある人、1冊からでかまいませんので、ぜひ図書館までお持ちください！お待ちしています。

夏休み中に蔵書点検を行いました。

現在６６冊の本が行方不明です。

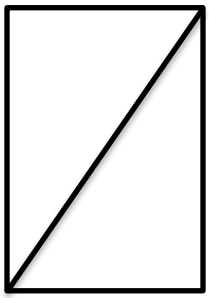
この１年間では１９冊が行方不明になっています。

図書館の本は、あなたの本ではありません。ブンジ生みんなの財産です。心あたりのある人、学校内で図書館の本を落ちているのを見かけた人、**図書館まで返却をお願いします。**

※不明本リストは木もれ陽後にはりだします。

今月の新着図書より

新着図書の中から司書がおススメする本を紹介します。



００２－タ

『学ぶということ

新・中学生からの大学講義１』

桐光学園＋ちくまプリマー新書編集部／編　筑摩書房

「学ぶ」って何でしょう？学校の勉強、受験勉強が「学ぶ」ことでしょうか？確かにそれも学ぶことの一面ではあります。けれど、本来「学ぶ」ことはもっと広い意味でつかわれる言葉ですよね。

「学ぶ」ことについて、内田樹、池上彰、鹿島茂など著名人たちが中学生に講演した内容をまとめたのが、この本です。内田樹は「大学はもはやアカデミアではなくファクトリーである」と述べています。現代の行き詰まった社会を明快な言葉で断じ、自分の才覚で生き延びよと言います。生きる力とは、いま持っている能力を高める方向が分かる力だとも言います。鹿島茂は正しく考える方法をデカルトの『方法序説』から説いてくれます。ＴＶで様々な事を解説している池上彰は、「『自分はなんてものを知らないんだろう』と思う」と述べています。学ぶこと、考えることは果てがなく、学ぶこととは生き方そのものなのだと圧倒させられる１冊です。